

# よこはまユースレター



昨年の「のじボラ」活動。1日も早く活動できる日が来ますように。

コロナ禍での

## あたらしいボランティア活動

青少年が、体験や出会いを通じて成長する機会となるボランティア活動。新型コロナウイルスの影響が大きかった今年は、多くの活動が制限されました。そんな中でも「ボランティア活動をしたい」青少年たちに応えようと、新たな活動を模索している団体も多いと思います。

本号では、野島青少年研修センターが今年取組んだ「新しいかたちのボランティア活動」をご紹介します。



\*\*\*\*\*

### ■ 青少年のボランティア活動「のじボラ」 \* \* \* \*

横浜市野島青少年研修センターでは、高校生世代から社会人までの青少年で構成された施設ボランティア「のじボラ」が活動しています。キャンプのグループリーダーやイベントのコーナー運営などで活躍しており、年々活動者が増え発展しているコミュニティです。今年度は新型コロナウイルスの影響で、主軸となるイベント活動ができない状況の中、新たに施設の事業企画にたずさわる活動に挑戦しています。

### ■ オンラインでのボランティア活動 \* \* \* \*

「今年の活動は未定」という状況ながら経験者・未経験者合わせて20人ほどの青少年から応募がありました。オンラインで行った活動説明会ではボランティア同士の交流の時間が十分取れず、私たち職員は彼らの思いや期待に応えたい一方、どうしたら『活動（青少年の社会参加）』や『仲間づくり』と『感染防止』とを両立できるか、今年の活動のあり方を模索しました。

そこで、初夏のオンラインミーティングでボランティアに対し「コロナ禍でもやれそう・やってみたいことはない?」と聞いたところ、「センターの事業プログラムを」のじボラと一緒に考えてみよう」ということになりました。

のじボラではまっさらな状態からの企画立案は初めてなので、どんな意見が出てくるかドキドキしましたが

「こんなオンラインイベントをやったらどうだろう」「小学生向けに〇〇でクラフトをやろう」など、アイデアがたくさん集まりました。また、これまでは「企画会議に参加できた人の意見」が中心でしたが、



オンラインになったことで全員が参加でき、新規メンバーからベテランメンバーまで様々な意見が飛び交い切磋琢磨することができました。現在、企画の第一弾として、ウォークラリーのプログラムの内容を改訂する作業に取り組んでいます。



ボランティアとの「オンラインミーティング」の様子。回を重ねるごとにさまざまな意見が出るようになりました。

### ■ ボランティアのつながりと、これから

オンライン化によってできる活動は変わりましたが、大切にしている“ボランティア同士のつながり”は変わらずに残りました。当初は「オンラインでつながりを作ることは難しいのでは」と考えていましたが、活動歴が異なっても互いを尊重し合いひとつのものを作ることができたのは、これまでの活動において築かれたボランティア同士の信頼関係がベースとあったからこそだと思います。青少年の力はすごいですね。とはいえ、やはり画面越しの企画会議だけでは物足りないのも事実です。また彼らと顔を合わせて、子どもたちの笑顔を見ながら活動できるようになるのが、今から待ち遠しいです。

■ 「のじボラ」活動についての問合せ  
野島青少年研修センター TEL045-782-9169



### 【報告】子ども・若者エンパワメントセミナー

#### 「子どもの人権～生きる力の輝き～」

《11月16日(月) 関内ホール 小ホール》

今年度は米国と日本で多様な人権啓発や子ども・女性への虐待防止専門職の養成に長年携わってこられた森田ゆり氏を招き、人権や支援者が持つべきフレームワーク(土台)の重要性、面前DVが子どもに与える深刻な状況などについてご講演いただきました。

新型コロナウイルス感染拡大防止のため会場の定員を減らす一方、初めての試みとしてYouTubeLiveで講演の様子を同時配信しました。

参加者からは「この状況の中、子どもたちがストレスを抱えていることにとても危惧しています」「『やめなさい』と加害者に言うより被害者に声かけすることで手助けできると思う事が新鮮でした」「人権とは“生きる力”、心に響きました」などの感想をいただきました。



## 横浜市野島青少年研修センター

『カヌー体験教室』(9月12~22日/全5回)

毎年人気のカヌー体験教室。例年は定員20人で実施していますが、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、同居する1家族限定で実施しました。



参加者は陸上でのマスク着用や健康チェックカードの提出、カヌー指導員は指導中のマスクやフェイスシールド着用を依頼し、感染防止を徹底しました。

コースは野島公園を出発し、平潟湾〜夕照橋〜シーサイドラインの線路の下などを通り、八景駅前にある琵琶島神社まで、普段では見られない水上からの景色を2時間たっぷり楽しみました。参加者からは『コロナでほとんどのイベントが中止になる中で貴重な体験になった』『家族一緒に体験できてよかった』との感想がありました。

## 横浜市青少年育成センター

『写真の撮り方ワンステップアップ講座』(11月30日)

フォトグラファーアドバイザーの坂元豊氏を講師に招き開催しました。「何の活動だったか分からない写真が多い」「顔を写さないでも楽しさを伝えたい」



などという悩みを解決するために、講座では撮影時のアングルや背景、上下左右のバランスについてアドバイスを受けました。また、カメラの感度や露出、トリミング(切り取り)加工など見

栄えが良くなるちょっとしたコツも伝えていただきました。

参加者からは「単に記録用と思わず、せっかく撮影するからには、見る相手のことも考えて今後は撮影していきたい」などと前向きな感想をいただきました。

## 青少年交流・活動支援スペース さくらリビング

『社会教育実習生を受け入れました』(8~9月)

今年度は駒澤大学からの3人が、青少年や利用者対応のほか施設周辺の地域活動へ参加しました。

実習生の発案で、コロナ禍でも青少年が楽しめるようにと、距離を保ちながら参加できるゲーム大会を実施しました。参加者から「アイディアが良かった」「また参加したい」などの感想があり、実習生にとって自信につながる体験となったようです。



2週間という短い期間でしたが、人とのふれあいを通して多くの気づきがあったと思います。また、青少年施設として大切にしている「人と関わる楽しさ」や「人と関わる力」を、実習を通じて感じとってくれていたら私たちスタッフも嬉しいです。

## 放課後キッズクラブ

『工夫しながら遊んでいます』(浦島小キッズ)

新型コロナウイルスに加え、インフルエンザも流行する時期です。キッズクラブでは手洗い・うがい・換気など基本的な感染拡大防止対策に加え、子どもたちが安心して過ごせるよう、空気清浄機や加湿器の設置、網戸の設置や貼り替え、ひとり遊び用のおもちゃの充実など、環境整備を進めてきました。

ジグソーパズルや立体迷路、ブロックなどは消毒がしやすいので数を増やしています。

感染症対策として、事前に参加を募るイベントやプログラムを中止していることもあり、一人で静かに過ごす時間も増えたため、本やマンガの充実も図っています。



Thank you for your support.

ありがとうございました!

2020年8月1日から11月30日までの寄附金

◆ユース賛助会費	70件	286,000円
◆一般寄附金	15件	42,937円

寄附金協力者(順不同、敬称略)

【団体】

ボーイスカウト横浜24団/川本工業(株)協栄会/ブックオフオンライン/横浜市健民少年団/横浜信用金庫/柴町内会/(有)武牛乳店/鶴見区子ども育成会連絡協議会/野島町内会/旭区子ども会育成連絡協議会/神奈川県鋸螺協同組合

【個人】

安部 きみ子/松本 小寿恵/合田 加奈子/馬場 洋一/三田 修/有路 由紀子/古澤 竜夫/太田 和子/片岡 喜久江/熊井 憲一/椎野 雅子/濱倉 公子/中村 輝次/澤出 吉秀/橋本 康正/木藤 紘次/下野坊 和子/沖津 淑子/前田 周子/手塚 潤悟/犬塚 善一郎/松本 研/佐藤 博/松井 孝子/雲井 耀一/片岡 暉/武 久美子/笠原 光子/林 由美子/小磯 ゆみ子/中谷 忠宏/乾 英昭/早川 雅子/三橋 赫夫/佐藤 雅亮/工藤 春治/時津 祥子/時津 美由樹/石塚 昇/橘川 和夫/安田 幸世/沼田 幸子/安田 修二/飯島 幹夫/須藤 健三/関野 修一/辻 弘枝/飯塚 道子/松本 磨理江/尾澤 詳恵

学生時代には、年末になると「終わり詣で」と称して鎌倉を散策していました。師走の空気の中、人の少ない鎌倉の街は心が癒されました。今年はコロナの影響で初詣を避け、12月にお参りを済ませる人も多かったようです。今年が、みなさんにとって素晴らしい1年となりますように。(まっきー)